

新版・女のネットワーク

横浜女性フォーラム編

学陽書房 A5判 四二二ページ 二、八〇〇円

この本は八七年に出版された『女のネットワーク』の内容をひきつぎ、さらに対象を広げて、ほとんど新版といつて良いかたちで製作されたものである。

女のころとからだ、結婚、子育て、新しい働きかた、エコロジカルな暮らし、政治への挑戦など広範な課題にとりくむグループを丹念に取材。初版に出ていた三〇〇のグループを再調査し、新たな三〇〇を加えて六〇〇余の活動をカバーするに至っている。

こういった種類の本は、必要な情報を求めるものが、適切な部分を活用していくことで十分

価値があるのだが、私はあえて通読してみることにした。

読んでみると興味ぶかいところがいくつも見つかった。まず、グループの記事の中のメンバーの短いコメントが、よくその雰囲気や伝えていっていることである。同世代のメンバーが時がすぎるとともに高齢化の問題にも取り組まなくてはならなくなったと述べる女性の落ち着いたコメント。活動する自分たちも楽しんで取り組むグループの跳んだスピーチ。かつて激しく活動した人々が理念としては受け入れられて、新たな方向へそれぞれが散って行ってしまった様子など、女だからというだけで連帯でき

た時代の確かに過ぎきったことを表わしている。

読み手として感じたのは、その他にコラム記事の適切な配置である。その分野の課題について触発されるように、一歩踏み込んだ情報がまとめられ利用できるようになっており、さらに問題点が手ぎわ良く整理されて、こまやかな気づきに感心させられる。

さきごろ発表された92年版『環境白書』によれば、市民が環境保全活動を行う際の最大の障害として、全国から選んだ環境モニターの三九%が「情報がない」ことをあげている。

また、九一年三月報告されている横浜市環境保全局の『都市環境市民意識調査』によると、取り組み方や知識について的一般情報と、呼びかけ・知り合い・団体連絡先などの人的ネットワーク情報の不足が活動の障害の主要因であるとしている。女性をめぐる問題は環境問題だけではないが、そういう点は共通し

ているように思える。

この本はまさに、新たな何かをやってみよう、参加してみようとする人にとって貴重な一冊である。そして活動団体相互の連携や行政などとの協調をはかるうえで大いに役立つものである。もちろん、マスコミや企業関係者にも幅広く活用されるであろう。

少し話題としてはズレるが、この本の「はじめに」の部分で、市民活動がその志を具体化するためには「知恵とお金」が必要だと述べている。女性も含め、広い範囲の市民活動を全体として活性化して行くためには、その知恵とお金の側面を支える社会システムが求められているのだ。

余暇の増加、高齢化の進展、そしてあらゆるものに質を求め時代の到来とともに、市民活動の果たす役割は大きく広がって行く。

先進的な課題への取組みが体質上遅れがちな行政などの公的

システムにさきがけて対応することの可能な市民活動の重要性は今後ますますゆくばかりであろう。効率性や創意工夫変幻自在な点で行政と適切に任務分担できる市民活動も期待されている。そういった要求にこたえらるためには重層的で多様な市民活動や非営利活動を社会として育てていかねばならない。

少しづつではあるが整備されつつある行政や民間財団などによる資金助成システム、資金の導入の仕方や活動・組織運営のノウハウなどについて効果的にアドバイスできる非営利の専門家・職業グループ、そして直接的な活動の主体たる市民グループが有機的に存在する必要があるのだ。

市場システムを主体としつつ、その中に非営利で自主的な活動分野が程良いひろがりを持つ社会、それこそ、私たちの求めるものである気がしてならない。

〈環境保全局 松岡 恒司〉